



平成30年2月16日

大学院社会文化科学研究科文明動態学シンポジウム 「モニュメントから見る文明動態論」のお知らせ

本学大学院社会文化科学研究科は2月24日、現在開催中の岡山大学埋蔵文化調査研究センター設立30周年第4回特別展示「瀬戸内海が育んだ交流の記憶」（1月19日～3月4日、岡山シティミュージアム）において、文明動態学シンポジウム「モニュメントから見る文明動態論」を開催します。

吉備地方は、旧石器時代から現代にいたる環境と地形変化がわかり、気候変動と人間活動の関わりを考える最適の地です。かつ、造山古墳・作山古墳という日本を代表する古墳があることから文明の出現と展開の研究を行うことにも適しています。社会文化科学研究科は文明動態学研究所の新規開設を目指していますが、それに伴い、文明動態学とは何か、岡山あるいは日本の遺跡研究は文明動態学にどのように寄与するのかを世界の遺跡と比較しながら検討します。

取材・報道方よろしくお願いたします。

<開催概要>

会場：岡山シティミュージアム 4階講義室（岡山市北区駅元町15-1）

日時：2018年2月24日（土）13:00～16:00

定員：80人（予約不要、先着順）

費用：シンポジウムは無料ですが、ミュージアム入館料（300円）が必要です。

講師ならびに題目（詳しくは別紙をご覧ください）

講演1 杉山三郎 愛知県立大学特任教授

「テオティワカン考古学の近況 ―モニュメント、儀礼、戦争と都市生活―」

講演2 松木武彦 国立歴史民俗博物館考古研究系教授

「文明動態論からみた日本列島の古墳時代 ―都市なき初期国家の謎―」

討論 杉山三郎氏・松木武彦氏（司会：松本直子大学院社会文化科学研究科教授）

概要はこちらからもご覧いただけます。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/event/event_id2098.html

<お問い合わせ>

岡山大学大学院社会文化科学研究科

教授 清家章

（電話番号）086-251-7457

（FAX番号）086-251-7457